

近年の九州地方整備局リクルート活動について

上杉 和¹・富本 和也¹・山本 貴之¹

¹九州地方整備局 企画部 企画課 (〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-10-7)

近年、少子高齢化による生産年齢人口の減少や、九州各地における災害の多発等により、九州地方整備局の職員の人手不足が課題となっている。被災自治体への支援など、九州地方整備局の地域に果たす役割が大きくなってきており、今後の業務の質を維持していくためにも、リクルート活動の重要性は高い。

そこで本論文では、九州地方整備局におけるリクルート活動の現状と課題を整理し、今後のリクルート活動について検討するものである。

キーワード リクルート、採用活動、新卒、社会人、広報

1. はじめに

近年、少子高齢化により生産年齢人口が減少している。(図-1) 一方、九州各地における災害の激甚化による被災自治体支援など九州地方整備局が地域に果たす役割が大きくなっており、業務の質の維持の観点からもリクルート活動の重要性が増してきている。(図-2) また、就職氷河期の影響から職員の年齢構成に傾きがあり、災害対応の即戦力となる係長世代が不足しているため、社会人経験者のリクルート活動も重要になっている。

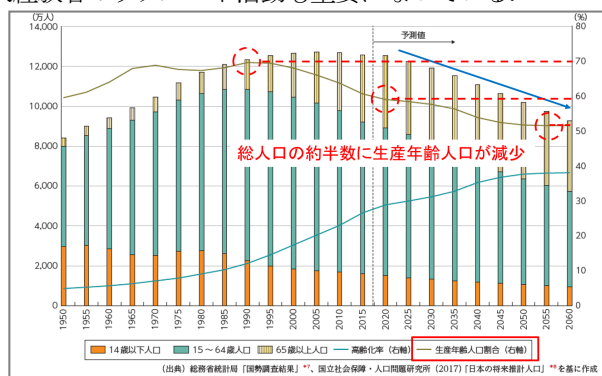


図-1 日本の人口と生産年齢人口の推移予測¹⁾

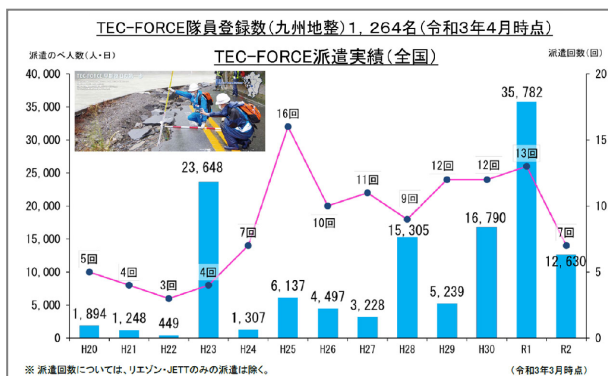


図-2 災害時のTEC-FORCE隊員派遣人数の推移 (全国)

そこで本論文では、近年の九州地方整備局におけるリクルート活動の現状と課題を整理し、課題解決のための今後のリクルート活動について検討する。

2. これまでのリクルート活動

(1) インターンシップ

国土交通省のさまざまな業務を体験し、社会資本整備の役割を理解してもらうこと、および現地での体験を通じて、学生の資質の向上と視野の拡大を図る事を目的に、大学・高専・高校等で技術系(土木・建築・農業土木・農学・林学・機械・電気等)を専攻している学生の就業体験技術実習(インターンシップ)を受け入れている。

(2) 現場見学会

国家公務員採用一般職試験(大卒程度)の一次試験受験者を対象とした現場見学会を6月に実施している。九州各地で開催しており、大規模工事の現場見学や、事務所若手職員との意見交換会も実施している。(写真-1)



写真-1 現場見学会(2021年度)の様子

(3) 業務説明会

国家公務員採用一般職試験の受験者を対象に、九州地方整備局の業務内容説明や意見交換を行っている。

(4) 学校訪問

九州各地の技術系の大学・高専・高校へ訪問し、担当の先生との情報交換や、学生への業務説明を行っている。

(5) リクルート広報

九州地方整備局のホームページや公式SNS（Facebook・Twitter）にて、上記リクルート活動の案内や報告を投稿している。また、若手職員による先輩からのメッセージも投稿しており、仕事の雰囲気やプライベートの様子も広報している。

(6) ハローワーク掲載

社会人経験者のリクルート活動は、(3)及び(5)に加えハローワークへの求人掲載も実施している。今後は求職者の目により届くような場所への広報も必要となってくる。

3. 現在のリクルート活動内容の課題

上記2. これまでのリクルート活動について、以下のとおり課題を整理した。

- (a) 従来の業務説明会や現場見学会、学校訪問のやり方だと開催場所や移動時間などにより参加できる学生に限りがある。また職員も移動等で時間が拘束されることにより、開催できる回数も限られる。
- (b) 社会人経験者の採用試験の認知度が低い。また、就業者においては、日中の説明会等に参加できない。
- (c) リクルートイベントへの申込者がいない場合があり、九州地方整備局のホームページに掲載するだけでは広報不足である。
- (d) SNSでの広報について、図-3のFacebookのフォロワーの年齢構成から見ると、SNSの投稿がリクルート活動の対象者である24歳以下の年代には届いていない。
- (e) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学生と対面でのリクルート活動が気軽に実施できない。

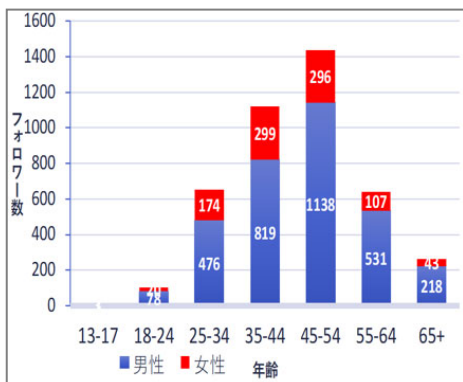


図-3 九州地方整備局のFacebookフォロワーの年齢構成

4. 課題を踏まえた今後の取組

(1) 学生の目線に立ったリクルート活動へ見直し

今後の新卒者へのリクルート活動の改善のため、今年度の現場見学会に参加した学生にアンケートを実施した。現場見学会を知ったきっかけや、リクルート活動についての質問から、学生に効果的な広報方法や学生が知りたい情報について分析した。

(a) 関心の高いリクルート活動

学生に関心の高いリクルート活動は、図-4のとおり職員と実際に話ができる業務説明会や現場が体験できる現場見学会に関心が高いことが分かった。これらのイベントについては引き続き力を入れて取り組む必要がある。

(b) 採用情報の入手方法

九州地方整備局の採用情報は図-5のとおり「ホームページ」で入手している学生が多く、「学校からの案内」や「整備局からのメールでの案内」という回答も一定数あった。今年度の取組として、ホームページに掲載した情報を学校やイベント参加者へメールによるきめ細やかな情報提供を実施した。その結果図-6のとおり、今回の現場見学会を知ったきっかけについては、「整備局からのメールでの案内」がホームページの次に多い回答数となり、メール案内が一定の効果があったことが分かった。

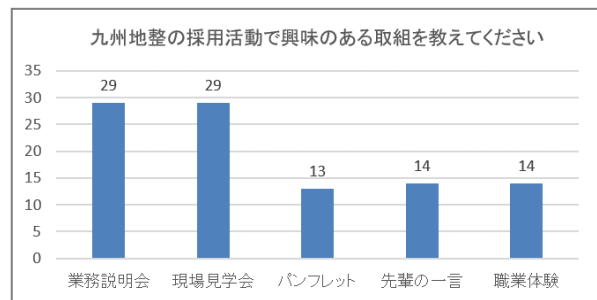


図-4 学生に関心が高いリクルート活動

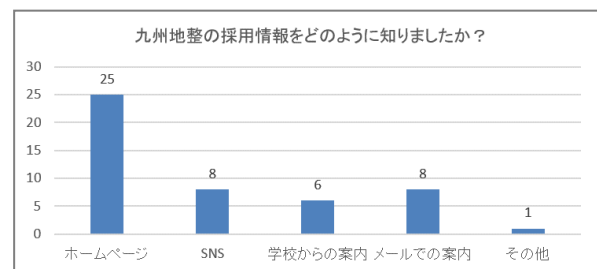


図-5 九州地方整備局リクルート活動情報の取得方法

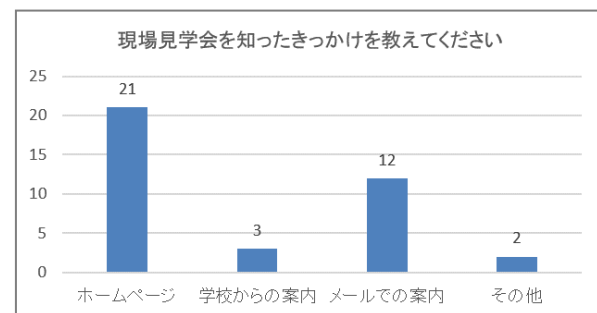


図-6 現場見学会を知ったきっかけについて

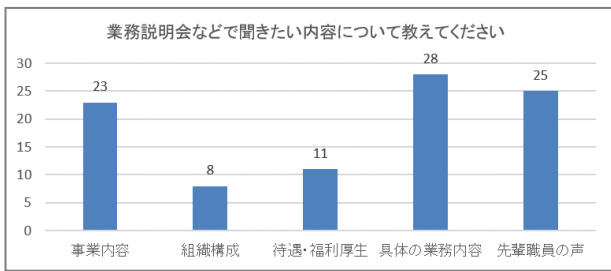


図-7 業務説明会で聞きたい内容について

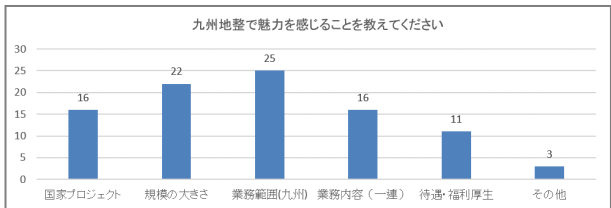


図-8 九州地方整備局の魅力を感じるどころ

(c)業務説明会で聞きたい内容や整備局の魅力について

(a)で関心の高かった業務説明会で学生が求めている情報は、図-7のとおり「職員の具体的な業務内容」や「先輩職員の声」であることが分かった。また図-8のとおり、九州地方整備局に魅力を感じることは「仕事のフィールドが九州と広く、さまざまな場所で地域貢献できる（業務範囲）」や「事業の規模が大きく、整備する構造物なども大きい（規模の大きさ）」といった回答が多かった。

このことから、業務説明会においては若手先輩職員から自身の体験を踏まえた具体的な業務内容の説明を実施し、その中で業務のスケール感（規模・フィールド）をアピールすることで、学生の希望する情報提供や九州地方整備局への関心を高めていくことが必要である。

(2) 新卒者のリクルート広報の強化

従来のSNSを用いたリクルート広報については、図-3・図-5のとおり、フォロワーの年齢層やアンケート結果を見ると学生に届きづらい傾向にある。そこで九州地方整備局の若手職員で構成されている「九州TRY IT」や、女性技術職員で構成されている「九州女性技術者の会（九WE会）」と連携した広報活動を実施し、新卒者へのリクルート活動における広報力の強化を図る。

(a)「九州TRY IT」との連携

学生に年齢に近い若手職員の感性で採用ポスターや採用SNSの作成を行い、業務説明会において九州TRY ITの活動紹介とともに作成した資料を活用することで、学生の九州地方整備局への理解や関心を深める。（写真-2）

(b)「九WE会」との連携

近年の土木分野の女子学生の増加を踏まえて、女性技術者のための職場訪問会の実施や、現場見学会、学校での業務説明会などに九WE会会員が参加している。女子学生との意見交換では、出産後の復職などの女性ならではの不安や悩みの解消に努めている。（写真-3）



写真-2 九州TRY ITによるリクルートポスターの作成



写真-3 女性技術者による説明（意見交換会）

(c) SNS広報の強化

新卒者採用の対象となる10代後半から20代の視聴者を増やすため、今年度から開設した、若い世代の利用が多いSNS（Instagram）での動画配信の検討を行い、既存のSNS（Facebook・Twitter）との相互強化を図る。

(3) 社会人経験者のリクルート広報の強化

(a)ポスター掲示場所の工夫

九州地方整備局における社会人経験者の採用については、2019年から開始しており、毎年若干名の社会人経験者を採用している。今年度当初に社会人採用職員の不安解消を目的に実施した意見交換会の中で、転職について家族で話し合いができるように、家族で利用する場所でのPR活動の提案があった。その提案を踏まえ、家族利用が見込まれる道の駅31駅（直轄一体型）に経験者採用のポスター掲示を行った。（写真-4）



写真-4 道の駅竜北へのポスター掲示

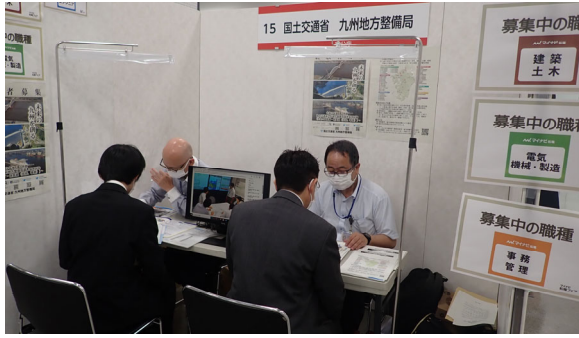


写真5 マイナビ転職フェアでの業務説明

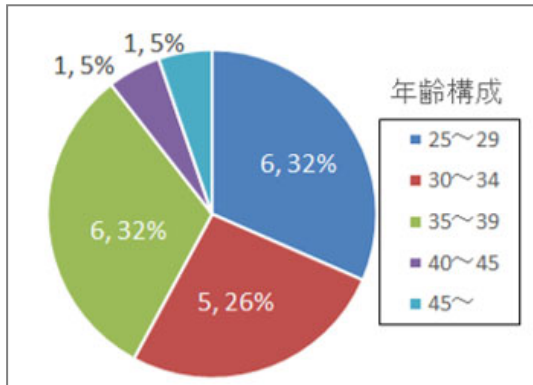


図9 マイナビ転職フェア参加者の年齢構成

(b) 転職フェアへの参加

今年6月に北九州市にて開催された「マイナビ転職フェア」に出展し、計19名の求職者に個別業務説明を実施した。(写真5) 経験者採用の対象者である30代以上の求職者は、図9のとおり業務説明を行ったうちの7割であり、対象外の20代の求職者に対しては、国家公務員採用一般試験の案内を行った。また、新卒者では応募者が少ない機械分野や電気電子情報分野の求職者も一定数あった。今後は、転職フェア聴講者の応募数などによる効果検証を行い、次回実施の必要性を検討する。また、他企業の出展ブースを参考に、ブース装飾や小型プロジェクターによる動画放映等を行って求職者の集客を図る。

(c) 業務説明会の工夫

対象者が就業中の社会人もいるため、業務説明会をWEBで実施するとともに、開始時間を20時からと参加しやすい時間帯にすることで参加者の増加を図り、九州地方整備局の業務への理解度や関心を高める。

(4) WEBを活用したリクルート活動の工夫

新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言等の発令を踏まえ、従来通りのリクルート活動が行えないため、従来は学生と対面で実施していた業務説明会をWEBで実施した。また緊急事態宣言解除後は、希望する申込者については感染症対策を実施した上で、少人数での対面方式で説明するなど、きめ細やかな対応を行った。近年の説明会との申込者数を比較したところ、図10のとおり例年よりも多くの申込者数となった。WEB

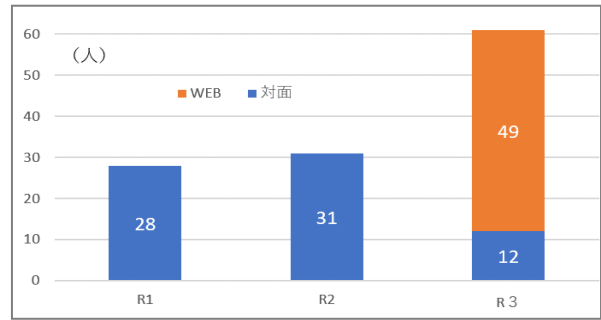


図10 個別業務説明会の参加者数（2019年度～2021年度）



写真6 官民女性技術者交流会（2020年度）

での説明会については通信障害等が発生する場合もあるが、遠隔地からの参加ができ、移動時間に左右されないため、より多くの学生への説明が可能になるなど、双方にとって利点があることが分かった。

5. おわりに

九州各地における災害の激甚化や、今後の建設分野の生産年齢人口減少に備えるためにも、将来の建設技術者の育成が必要である。

九WE会では、小中学生やその親に建設業の魅力や意義を伝える工夫について、民間企業や官公庁の建設業に関わる女性技術者と連携して検討している。(写真6)

また、希望を持って入省した職員のためにも、職員が安心して働きやすい職場環境の構築も必要である。九州地方整備局では、オフィス環境の改善として無線LANの導入によるフリーアドレス化やオフィス器具の改修による職場の雰囲気改善などに試行的に取り組んでいる。また、新規採用職員との意見交換会を実施し、不安の解消や同期との関わりの場や先輩に相談できる場を設けている。

今後も地域の期待に応えるためにも、求職者目線でのリクルート活動を推進し組織体制を維持するとともに、現職員が働きやすい職場環境の構築を行い、魅力ある九州地方整備局を目指す。

参考文献

1) 総務省：令和2年版 情報通信白書